



評価は何のために行うのですか。

児童生徒のよさを積極的に評価し、児童生徒が学習したことの意義や価値を実感できるようにするとともに、授業者自身が指導の改善に生かしていくために行います。道徳科も他教科と同じです。



■道徳科の評価

『学習指導要領』「第3章 特別の教科 道徳」第1には、次のように目標が示されています。

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己(人間として)の生き方についての考えを深める学習を通して、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てる。 ※ () は中学校

道徳科においては「**よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う**」ために、**道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度**を育てます。

道徳科の評価とは児童生徒の道徳性を評価するものではありません。道徳性は目に見えない内面的資質であり、授業において道徳性が育ったかどうかは容易に判断できません。そのため、道徳科の授業では児童生徒の学習状況及び道徳性に係る成長の様子を評価します。

■評価の基本的な考え方

学習指導要領解説道徳編には、「評価の基本的な考え方」が示されています。

以下の2つの視点から評価を行います。

1 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させているか。

いろいろな人の考えを参考にしながら、自分の考えを深めているか、など。

2 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか。

教材の登場人物に自分を置き換えて考えたり、自分自身を振り返り自らの行動や考えを見直したりしているか、など。

2つの視点から、児童生徒のよさを認め、自分自身の授業改善につなげていきましょう。



指導と評価の一体化を意識して、児童生徒の学習状況を基に学習指導過程や指導方法を振り返り、**授業者自身の指導の改善**に生かすとともに、**児童生徒へのフィードバック**を行う。

考えを交流させる場を設定したら、色々な考えに気付かせることができた。次は、より自分事として考えられるような展開を考えよう。

授業力が向上する

学習したことの意義や価値を実感できる

なるほど！そんな考え方もあるんだ…。もう少し考えてみたいなあ。



これまでの経験を振り返らせたら、改めて価値について考えさせることができた。

教師



私はこう考えるけど、友達の考えも聞いてみたいなあ。考えることって大切なんだね！

児童生徒

